

平成 30 年度 第 3 回学校運営協議会記録（概要）

1. 開催日時 平成 30 年 10 月 13 日（土）午後 3 時～午後 4 時 30 分
2. 会場 立川市立第九小学校 図書室
3. 参加者 古川茂一 塚田眞恵 荒井千秋 井口拓志 加藤積一 鳴島広之
小林邦子 長久保昌典 教職員

4. 内容

<副校長> 資料確認

<会 長> 司会

(1) 校長挨拶

・コミュニケーションスクールに指定されてから折り返し地点に到達した。学校運営協議会も 5 回中第 3 回を迎え、半分を過ぎたところだ。今回は、委員と教職員の顔合わせをする。概ね校務の分掌ごとに教職員を分けて、それぞれのテーブルに委員の皆さんに入っていたくこととした。子どもにとってより良い教育活動ができるよう、今日はその鍵を見付けていただきたい。

(2) 委員、教職員の自己紹介

(3) 2 学期の学校の取り組みや様子について

①校長

・資料 2 を見ていただきたい。運動会は台風の影響で 2 日間の開催になった。ご迷惑をおかけした面もあったが、子どもたちが練習してきたことをすべて発表することができた。2 日間にわたる開催については、朝早くから P T A を初め教職員も含めていろいろな方にご尽力いただいた。1 日目はできるだけ多くの方に子どもたちの表現運動を見ていただきたいかった。周辺他校も同様の措置をとっている。練習中から安全かつ達成感のある活動を目指し、運動会当日も一人もけが人が出ず大変ありがたかった。

今年度の運動会の変更点は、昼食場所として体育館や算数少人数教室、パソコン室を開放することとした。練習期間中、暑さ対策として暑さ指数を図る計測器を 2 台購入し、練習場所近くに設置した。競技の円滑な運営のため、ビデオ判定をなくして判断が付きにくい場合は同着判定もありとした。

今年度は気温があまり上がらないとの予測を得て設置を見送ったが、次年度は児童席に遮光ネットを張る方向で検討していく。

P T A の席取りは周辺に影響が少なくなるように南門とした。

・本日の道徳授業地区公開講座は、立川市教育委員会との共催で実施した。家庭、地域と連携し、教職員との意見交換を通して道徳授業の質を高めていきたい。

各学年の指導の重点は、1, 2 年生は身近な人に温かい心で接し親切にする態度、自分や友達の特徴を理解しようとする態度、約束を守りみんなが使うものを大切にする態度を育てること。3, 4 年生は、相手のことを思いやり進んで親切にする態度、相手のことを理解し自分と異なる意見も大切にする態度、約束やきまりの意義を理解し守る態度を育てること。5, 6 年生は、誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にする態度、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重する態度、法やきまりの意義を理解し自他の権利を大切にし義務を果たす態度を育てること。くわのみ学級は、身近な人との関わりを大切にし、思いやりの心を育てること、心身ともに健康で粘り強く課題に取り組む態度を育てることである。道徳を知識として教え込むのではなく、子どもが考えを聞き合い、考えを深めていくことを重視したい。年間を通して教科書教材を使用しているが、保護者、

地域の方にも道德の問いについて考えていただきたく、今回は教材文を配布した。大人の願いも伝えながら、児童の振り返りや感想の蓄積、友達の考えを聞くことで、自分の考えを深めたり、広げたりすることを大切にしている。

・運動会、道德授業の他にも、9月22日にはあしっこガーデンの清掃、和太鼓クラブの出演などに取り組み、保護者や地域の方のご支援をいただいた。

②分科会での意見交換（約25分間）

③分科会からの発表（約10分間）

テーマ 夢ファーム・和太鼓

◆3 2学期の学校の取組や様子について

◎夢ファーム：長けていた方がいなくなったときの引き継ぎが大切

（2代前の校長の時に開始）

- ・大根を育てている。地域でトラクターを借り、栽培も地域の方と進めている。
- ・中心になる教員が進め、児童は2ヶ月に1回程度活動（学年により違いもある）。PTA（農家の方）の協力も得られそうである。
- ・育てた野菜を収穫する喜び、全校児童の参加、九小祭での野菜販売等の学習がよきであり、管理の大変さが課題である。

◎和太鼓：長けていた方がいなくなったときの引き継ぎが大切（今年で17年目）

- ・今年度の和太鼓クラブの人数は23人。くわのみ学級では、週1度和太鼓練習をしている。クラブの活動は、月1回の出演（年間10回程度）と週3回の朝練習で、府中から講師が手伝いに来てくれている。
- ・和太鼓の活動を通して、子どもたちが成長していくのがよきである。
- ・教員の世代交代もあり、和太鼓の指導ができなくなる不安がある。担当教員の負担が大きいこと、一部の児童しか経験できないのが課題である。

◆保護者、地域との連携について（お願いしたいこと、取り組めそうなことなど）
検討中

テーマ 運動会・体力向上

◆3 2学期の学校の取組や様子について

◎運動会

< 席 > ・席取りのやり方はよかった。（抽選案も出た）

・自転車で来ることの禁止、〇時以前は並ばない…を入れたい。

< 表現 > ・土曜の雨が予想できたので、事前に弁当なしに決めて欲しいとの意見があった。

・日曜を休みにしたこと、表現を連続して行ったことは好評だった。

< その他 > ・授乳室の鍵の管理をはっきりしておくとうい。教員とPTAがコミュニケーションを取り、役割分担を行っていく。

◎体力向上（体育授業）

・説明を短くし、運動時間を確保することが課題である。

・学習支援を体育で行ってもよい。（体力テストの日なども）

◆保護者、地域との連携について（お願いしたいこと、取り組めそうなことなど）

・くわのみ学級では、大人の手が多くても子ども自身にやらせ、ヘルプスキル（「できないので手伝って下さい」）を言えるように心がけている。

・子どもとの関係づくりができないと、指導も通らない。保護者に寄り添い、提案するスタンスを大切にしている。

テーマ 生活指導

◆3 2学期の学校の取組や様子について

- ・五中学区としての年間の取組は、あいさつ（1学期）、言葉遣い（2学期）である。
- ・いじめ0の取組として、6, 11, 2月の「ふれあい月間」で子どもたちの関わりを深めたり、月目標を立てて、一人一人に振り返りをさせ意欲の向上を図っている。できた子はまわりに広げ、できなかつたら次回挽回する。年度末には、九小独自の取組として、「いじめ0」スローガンを各クラスで考える。意識の高まりを感じる。
- ・週始めや連休明けはあいさつが思うようにできない。教員にはあいさつするが、事務、配膳員さん等への定着が薄いとを感じる。
- ・運動会も終わり、落ち着いてきたので、下校時に教職員のあいさつ運動を推進する。
- ・五中では、10日間ほどPTAがあいさつ運動を行っている。九小では、PTAは旗振り等をして下さっており、あいさつ運動の依頼には難しさを感じる。
- ・言葉遣いは、公的な場、TPOに合わせた使い分けが難しい。一方で、子どもたちの間の注意が聞こえるようになり、少しずつよい方向に広がっている。
- ・給食の残採、落とし物が多い点は、教員と家庭の両面からの働きかけが必要である。

◆保護者、地域との連携について（お願いしたいこと、取り組みそうなことなど）

- ・学校便りなどでも、呼びかけている。

テーマ 研究・学力向上・学習支援

◆3 2学期の学校の取組や様子について

<研究>

- ・ICTの研究では、タブレットPCを活用した授業を行い、児童一人一人がタブレットPCを操作している。教師用タブレットで、児童の作品や学習の様子を大型TVに映し出す活用は、多くの教員が行っている。
- ・機能面（回線）の改善については、新しいものに取り換えてほしいとの要望がある。

<学力向上>

- ・東京都の平均より低い傾向があり、基礎の定着が必要である。
- ・家庭学習の定着が大切だが、家庭環境による難しさも感じる。
- ・学力向上の取組として、朝学習（水 漢字, 金 計算）, 火放 補習, 市 塾講師による対象児童への学習等を行っている。

<学習支援>

- ・地域、保護者に授業に入ってもらい、大人の目を増やすことで、やる気の向上や細かい支援につながっている。味噌づくりなど、学期に一度実施している。
- ・準備など負担もあるが、子どもの意欲や安全面で続けた方がよい。ミシン、町探検など、落ち着いて取り組める。どの内容で取り組むと効果的なのかは、学年により異なる。

◆保護者、地域との連携について（お願いしたいこと、取り組みそうなことなど）

- ・地域の方に学習支援をお願いしたい。

テーマ 特別支援教育・道徳

◆**3** 2学期の学校の取組や様子について

- ・幼稚園でも特別支援が必要な子どもが増えている。適切な学習環境について保護者に伝えていく必要がある。
- ・造形遊びでは、手先の訓練や表現に取り組んでいる。
- ・幼小連携として、運動会、道徳公開など互いに見合う機会があるとよい。

◆保護者、地域との連携について（お願いしたいこと、取り組みそうなことなど）
お願いしたいことを伝えていく。

(4) 家庭、地域で育む豊かな心の育成について

①分科会での意見交換（約20分間）

②分科会からの発表（約10分間）

テーマ 特別支援教育・道徳

◆**4** 家庭、地域で育む豊かな心の育成について

- ・いじめ、自殺の増加が、道徳の教科化につながった。（生活指導では限界がある）
家庭環境も大切で、遊び、食事等の日常を通して豊かな心が育まれる。
- ・学校で学んだことを家庭に持ち帰って実施すること、学校での出来事を家庭で話すこと（おうちのかたが受け止める）、親が手本になり（身近な人から学ぶ）、子どもにやって示すこと、学校と家庭が共通理解を図り、同じように実践していくこと、あいさつやお礼を大切にしたい。
- ・ごみ拾い（親子で、地域で）を一緒に実践することも、ごみを捨てない心の育成につながる。

テーマ 研究・学力向上・学習支援

◆**4** 家庭、地域で育む豊かな心の育成について

道徳

- ・教員はねらいをもっているが、保護者、地域の方はどう感じているのか情報共有をしたい。
- ・道徳の難しさとして、空気感をどう作るか、読み取りにならないようにするなど国語との違い、思いやりをもって行動することの難しさ、変化を見取り評価することなどがある。
- ・体験しないと実際にはわからない道徳的価値もあるように感じる。学習を積み重ね、よりよい選択をするための種まき、共感、人の意見に耳を傾けること、意見を伝えることを大切にしたい。
- ・道徳には間違いがない。いろいろな子どもに発言をしてもらう機会にしたい。
- ・葛藤場面を作ると、空気を読んで選択したり、“よし”とされる方向に流れてしまったりする子どもも見られる。問題意識をこころの引き出しにしまい、ふとした時に出すことができればよい。

◆その他に話し合われたこと

たてわり

異学年の交流の中で気付くこともある。掃除、遊びなどの活動を今増やしている。

テーマ 生活指導

◆4 家庭，地域で育む豊かな心の育成について

- ・児童の安全管理のため、来校者の名札の携帯が必要である。不審者に対する警戒を行う一方で、誰にでも「あいさつ」できることは大切。児童への指導の難しさもあるが、地域の方から声かけ、あいさつの呼びかけをお願いしたい。
- ・昔は登校班であいさつ、礼儀の大切さを学んだ。今は地区班だが編成に苦勞している。個人情報に関わる問題や集合時間に集まらない等の状況もあり、あり方の検討が必要である。
- ・子ども同士のトラブルが起きると、一旦、学校を經由して解決に導くことが多く、負担を感じる面もある。

テーマ 運動会・体力向上

◆4 家庭，地域で育む豊かな心の育成について

- ・保護者，子ども，教師が支え合う関係になれるとよい。

テーマ 夢ファーム・和太鼓

◆4 家庭，地域で育む豊かな心の育成について

- ・九小の子どもたちは、しっかりしていて、以前よりおっとりしているように感じる。一方で、あいさつはまだ十分でない。豊かな人間性として、どろくさく、どろにも負けない子どもを育てたい。

(5) その他・今後の予定

- ・第五中学校校区小中連携教育研修会を10月26日に実施。
- ・本校の本発表を11月16日に実施。
- ・第4回運営協議会は12月21日，第5回は2月9日に実施予定。

<会長>

他に連絡がなければ，本日はこれで終わりにする。